

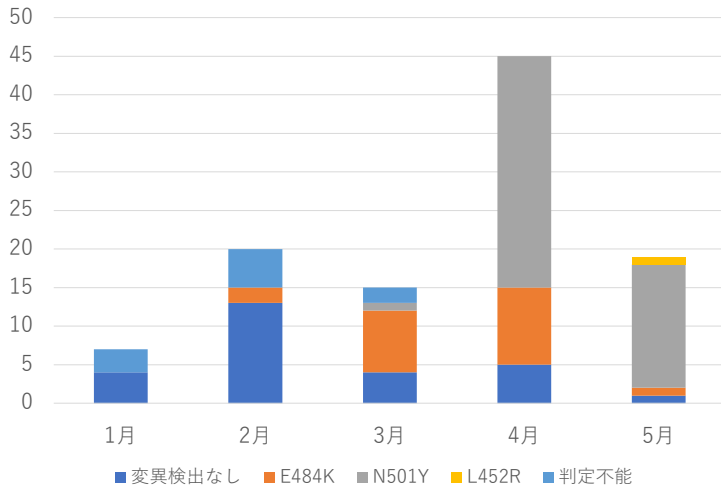
変異株スクリーニング症例の検討

1

集計対象

- 2021年5月10日までに東京医科歯科大学医学部附属病院で変異株スクリーニングが行われた入院例（106例）について5月10日現在の状況を集計した。
- スクリーニング結果を 変異なし、E484K変異あり、N501Y変異あり の3群に分け、全体・ICU入室例・非ICU入室例について集計を行った。
- 検定にはFisher's exact test、マン・ホイットニーU検定を用いた。

変異株スクリーニング結果（入院月別）

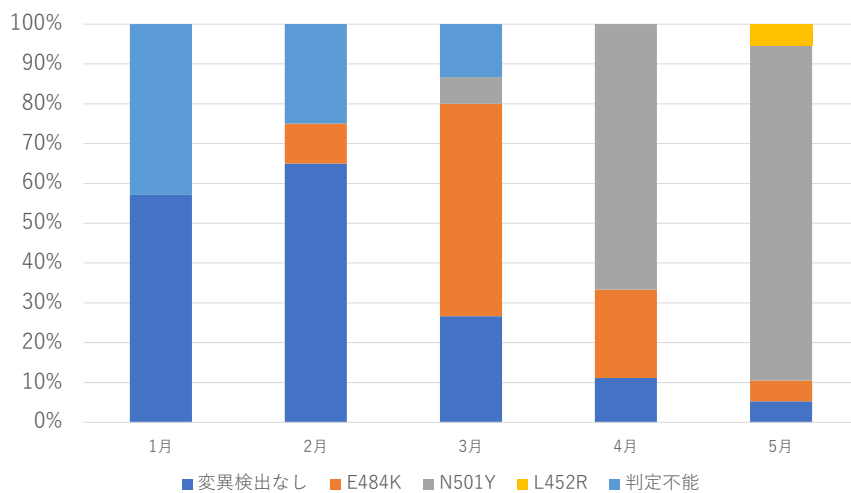


変異なし	27
E484K	21
N501Y	47
L452R	1
判定不能	10
計	106例

複数の変異が同時に検出された症例はなかった

3

変異株スクリーニング結果（割合、入院月別）



患者背景

	変異検出なし (n=27)	E484K (n=21)	N501Y (n=47)
年齢中央値（範囲）	71(39-89)	75(46-90)	49(16-85)*
男性（%）	19(70.4%)	13(61.9%)	33(70.2%)

* Statistically significant

5

重症度・入院後経過

	変異検出なし (n=27)	E484K (n=21)	N501Y (n=47)
入院時ICUに入室	7(25.9%)	4(19.0%)	14(29.8%)
入院時または入院後に ICU入室あり	14(51.9%)	6(28.6%)	16(34.0%)
ICU入室日数 中央値（範囲）	10(0-64)	14(2-31)	5(1-13) ^a
人工呼吸あり	9(33.3%)	3(14.3%)	14(29.8%)
人工呼吸日数 中央値（範囲）	8(0-61)	24(21-26)	3(2-8) ^{b*}
入院日数 中央値（範囲）	14.5(0-64) ^c	13(2-31) ^d	10(3-24) ^{e*}

a. ICU入室中の6例を除く

b. 人工呼吸管理中の5例を除く

c. 入院中の1例を除く

d. 入院中の4例を除く

e. 入院中の20例を除く

* Statistically significant

考察

- N501Y群は、変異なし群と比べて年齢分布が若かった。ICU入室・非入室に関わらず同様であった。
- N501Y群は人工呼吸使用日数、入院日数が変異なし群よりも短かった。ただし、治療中の症例が多く、今後変化する可能性がある。
- N501Y群の死亡割合は変異なし群との差を認めなかった。ただし、入院中の症例が多く、転帰が明らかになるにつれて変化する可能性がある。
- 感染者の急激な増加を防ぎ、重症患者に適切な治療を提供できる体制を継続することが重要と考えられる。